令和4年度(2022年度)学校評価報告書

北海道教育委員会教育長 様

令和5年(2023年)3月27日 北海道江別高等学校長

次のとおり令和4年度(2022年度)の学校評価について報告します。 本年度の重点目標

- 学科の特性や専門性を生かし、生徒の多様な学習ニーズに応えるとともに、学科間の連携を通して、高校教育として共通に求められる知識や技能を修得させる。(全日制)○ 協働する教職員組織の確立を図り、創意と活力に満ちた魅力ある学校づくりを目指す。(定時制)
- 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と全後の改善方策

自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策		
評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程· 学習指導	・教適育資を間の・ライ をの育の一部を をの育の一部で をの育の一部で をの育の一部で をの育の一部で でで、るとると をのとして でで、るとると でで、るとる必ず をのとのとのとのでで、 でで、るとると でで、るとる必ず をのとのとのでで、 でで、るとる必ず をのとのでで、 のとのとのでで、 のとのとのでで、 のとのとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとのでで、 のとるががのがのがでで、 のとるがありたで、 のとるがありたで、 のとるがありたでで、 のとるがありたで、 のとるがありたで、 のとるががのので、 のとるがありたで、 のとるがのので、 のとるのでで、 のとるのでで、 のとるのでで、 のとるのでで、 のとるのでで、 のとるのでで、 のとるのでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 のので、	・保護者アンケート・評議員の評価から本校の教育活動に一定の評価をいただいていることがある。 ・複数課程及び職業科を含む複数学科設置の特色を生かした教育活動として、特色あるおばじめ、が展開されている。また、高大連携をはじめ、外部との連携も積極的に進めている。
改善方策	学習指導要領を適切に実施し、生徒の学びの充を進める。生徒個々の能力、適正、進路指導に応努める校内外の各種研修会を積極的に活用しながを軸にICT機器を活用したオンライン学習を積校内研修等によって教職員の意識啓発を図る。	実と進路実現に対応する教育課程の編成、見直しじ、主体的に学ぶことができる教育課程の編成にら、教員の授業力向上を進める。情報部、教務部極的かつ効果的に取り入れ、校内体制を構築し、
生徒指導	・学校行事や地元自治体と連携しながら、生徒の主体的活動を活性化する必要がある。 ・面談の効果的実施形態や生徒指導に関する指導方法について学年、分掌を横断的に捉え、情報共有を進めることが必要である。 ・いじめ防止に向けた取組体制の周知と整備を行うことができている。	・コロナ感染症終息に向けた学校行事の復活が進み、部活動にも積極的に参加しており、る。 身共に成長している様子がうかがわれる。 ・SNSの使用方法によっては、保護者とも連携しながら、危険性について充分に認識させる指導が必要である。 ・いじめに関する指導は継続的に行っていく必要性がある。
改善方策	日常的な観察や面談を進め、得られた情報を教 体制の充実を図る。自他を尊重する指導を進め、 生活を送ることができるような生徒指導体制・教	職員全体で共有し、生徒理解に努め、予防的指導 外部人材を活用しながら生徒が安心・安全に学校 育相談体制を構築する。
進路指導	・生徒には、主体的な進路選択能力を身につけ、 情報提供にとどまらず、生徒の主体的活動を促 す指導の手立てが必要である。 ・今年度はインターンシップを実施することが 出来なかったが、必要な取組であり、次年度以 降も継続して実施する。事後指導を充実させ、 対象者の拡大と内容の充実を図る。	・難関大学への合格は現役生徒の励みになる。 ・今年度の卒業生には系統的な指導が進路決定状 ・今年度の卒業生には系統的なる。 ・別に大きな成果をあげている。 ・複数回の説明会の実施など充実した進路シラバスにより丁寧な進路指導が実施されている。 ・多様な進路希望を実現するための課外講習体制を充実させる必要がある。
改善方策	3年間を見通した指導計画に基づき、生徒が主体的に自己の将来について考える姿勢を育成する。 職業人による講話や専門学校、大学等の外部と積極的に連携を図り、学年段階に応じた指導と情報 提供に引き続き努める。	
健康安全	・感染症対策に追われた一年であったが、終息が見えてきたが、教職員一同、一貫した手洗い、検温等の基本的な予防対策指導を徹底したことで効果が得られた。 ・生活状況や交友関係から教育的サポートが必要な生徒がさらに増加している。SCやSSWのさいなる活用充実が望まれる。・危機管理マニュアルの点検・改訂を継続的に実施することが必要。	・感染症対策は今後も継続する必要がある。 相談体制の充実をより一層進めていく必要がある。 ・教育相談の連携体制充実のため、外部人材活用 を積極的に活用できる充実した校内体制を構築 する必要がある。
改善方策	今後もコロナに限らず感染状況に応じた実効性 各種事業を活用しながら、SCやSSWの外部 者との連携を密にしながら教育相談体制を充実さ	のある感染症対策と生徒の意識醸成に努める。 人材を積極的に活用するとともに、自治体の関係 せられるよう今後も活用枠の拡大を要望していく。
その他	・学校活動を積極的にHPを活用して発信することに努めた。 ・大規模改造工事が終了し、トイレ、外壁環境の改善が見られた。今後も快適な学校生活を送るための環境整備が必要である。 ・職業学科の教育活動の理解と魅力発信に向け、更に効果的な策を講じる必要がある。	・地域で生徒の活躍する話題が多く、きめ細かな教育活動がなされ、成果をあげている。これらの取組を積極的に外部へ発信すべきである。・メール配信サービスをHPを活用し、感染症対策や自然災害時の連絡体制を整備する必要がある。・定時制課程の継続的な振興、支援も重要である。
改善方策	各行事や地域での取組をもとに、HPや報道機 レットや学校説明会の内容を工夫し、各学科の魅 用した授業実践や各行事への保護者の参加を促し	関を活用して積極的な発信を行う。また、パンフ 力を中学生や地域へ発信する。地域の教育力を活 、開かれた学校運営に努める。
公表方法	PTA役員会及び総会等で保護者に配布するとと	もに、HPで公表する。